

吉田翼 '14年「シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ」 の参戦権獲得！

「He has a future(彼には未来がある)」。青木ノブアツ率いるトレックススポーツクラブの吉田翼選手(13)が、「シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ」の選考会に合格した後の、責任者のアルバルト・プーチの言葉だ。そしてその言葉通り、吉田選手は来年、より具体的な未来——世界への道——を歩み始める。

「シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ」は、来年初めて開催される新しいシリーズ戦だ。アジア圏内から有望な若手ライダーを選出し、MotoGP併催の3戦(カタール/日本/マレーシア)を含む全6戦で競われる。ここでの活躍は、レッドブル・ルーキーズ・カップやスペイン選手権など、さらにGPに近い選手権に直結するという、チャンスと可能性にあふれた選手権である。

吉田選手は、本人や両親、そしてトレックススポーツクラブの方針もあり、「もっとも効率よく世界をめざす道」として、この「シェルアドバンス・アジア・タレントカップ」をめざした。だが、応募700名以上に対して、合格するのはわずか22名という狭き門だ。そして10月14~16日、MotoGPを終えたばかりのマレーシア・セパンサーキットでの選考会に、書類選考を通過した108名のライダーたちが集まった。

今回、初めてヒザの間にタンクがないアンダーボーンフレームのマシンに乗った吉田選手。「合否に関わらず全力を出し切ろうと思った。緊張はしませんでした」と落ち着いた様子でライディングに臨む。もともと慎重なタイプの吉田選手だが、ここ一番の大舞台でも「受かるかどうかより、どうやったらこのマシンを速く走らせられるかを考えていました」と、堂々とした走りを披露。見事に合格を勝ち取り、2014年の「シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ」参戦を決めた。

■吉田翼選手談

「名前を呼ばれた時は、うれしさよりも信じられなくて……。応援してくれた人たちに『おめでとう』と言われて、ようやく少しずつ合格が実感できてきました。『シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ』参戦にあたっては、もちろん上位を走ってチャンピオンを獲りたいけど、それだけに留まらず、もっと将来につながるような何かをつかみたいと思っています。僕は全日本ロードの経験もないし、『シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ』で使用するNSF250Rのライディング経験も少ない。課題はたくさんありますが、来年の開幕戦の間に練習を重ねて、自分の強みであるコンスタントなライディングを武器に戦いに臨むつもりです」

■吉田選手の父・和明さん談

「選考会に参加すること自体が、翼にとっては大きなチャレンジ。例え合格しなくても、いい経験になると思って送り出しました。合格の知らせを聞いた時は、泣いちゃいましたよ(笑)。レースを通じて、彼は分け隔てなく人と付き合えるオープンな心を育てています。『シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ』参戦を期に、社会の仕組みを学びながら、より翼らしく成長してもらいたいと思っています」

■トレックススポーツクラブ代表・青木宣篤談

「非常に狭き門であることは分かっていたし、日本からも全日本ロードに参戦しているライダーたちが多く参加していたので、合格を決めてくれた時は本当に信じられない思いでした。吉田選手は努力を苦にせず、努力すること自体を楽しめるタイプ。まだまだ伸びしろがある『これから』のライダーです。共に合

格した6名の日本人ライダーたちと『シェルアドバンス・アジア・タレント・カップ』で切磋琢磨しながら、再び日本のロードレース界に活気をもたらしてくれることに期待しています」

■吉田翼 プロフィール

2000年1月7日生まれ。中学2年生。5歳で初めてモトクロスバイクに乗り、6歳でキッズバイクレースに本格参戦監視。'07年、7歳でトレックススポーツクラブに加入。頭角を現し、'10年には関東ロードミニ選手権4ストキッズ&ハルナミニバイク4ストキッズクラスでシリーズチャンピオン獲得。以降現在に至るまで、榛名、日光、筑波、もてぎなど各地のミニバイクレースで上位につけ活躍中。



この件に関するお問い合わせ/ご支援受け付け先

青木ノブアツ2輪促進委員会 代表 青木宣篤

WEBSITE: nobuaoki.jp/npo E-mail: info@nobuaoki.jp TEL: 090-4272-5894